

『格差の現状を検証する』

第1章

要点のまとめ

所得から見る格差の現状

- 格差を何で測るか
 - 資産や消費では正確に測れないため、所得で測る。
- 所得とは「再分配前所得」と「再分配後所得」という二つの概念区分がある。
- 所得を計測する4つのデータソース
「所得再分配調査」、「家計調査」、「全国消費実態調査」、「賃金構造基本調査」
どの調査にもメリットとデメリットがある

日本の不平等を国際比較する

- OECD調査

- ジニ係数等を用いて所得分配の不平等度を計測する

- 平等性の高い国

- デンマーク、スウェーデン、オランダ等

- 平等性の中程度の国

- フランス、ドイツ等

- 不平等性の高い国

- ポルトガル、イタリア、アメリカ、日本

- 日本も不平等性の高い国に属している

深刻さを増す日本の貧困

- 絶対的貧困と相対的貧困

絶対的貧困＝食べていけない、生活ができない

相対的貧困＝平均的な所得よりも所得が低い

- OECD調査により

日本の絶対的貧困率は加盟国中、第5位。先進国だけでは第3位。

相対的貧困率も高い増加率を示している。

絶対的貧困率、相対的貧困率の点から見ても、貧困者の数は増加していると結論づけられる。

統計に表れない格差の存在

- 富裕層の実態

- 所得や財産を把握していない。節税のため過少申告
→ 実態よりも低い所得が数字として出てくる

- 貧困層の実態

- ホームレス 住んでいるところがはっきりしない
単身者 住民票を移動していない
病人や老人 調査がなされていない
→ 深刻な貧困状況にあっても標本に現れてこない

格差は見かけなのか

- 「格差の見かけ論」が見落としているものとは？

—日本においての少子高齢化が進んでいること、家族構成の変化

- セーフティーネットと格差の関係とは？

—日本社会においてセーフティーネットの規模が小さくなっており、セーフティーネットの規模が小さくなると、さまざまな所得維持の縮小を意味する。つまり、人々の所得が低下し貧困層の数を増やすことにつながる。

—政府が「格差拡大は実際起こっていない」と主張しているが、政策によって格差拡大を助長しているため、自己矛盾していると考えられる。